

令和6年度 第2回大津市教育振興基本計画策定懇話会

- 1 開催日時 令和6年10月11日（金）
開会：午前11:00 閉会：午前12:30
- 2 開催場所 新館2階 災害対策本部室
- 3 議題
(1) 第4期大津市教育振興基本計画／大津市教育大綱（案）について
- 4 出席委員
学識経験者 兵庫教育大学 教授 滋賀大学教職大学院 客員教授 大野裕己
市民団体代表 大津市自治連合会 岸場馨
大津市PTA連合会 大貫大輔
大津市PTA連合会 小森美恵子
- 5 会議に出席した事務局職員
教育総務課長、教育総務課長補佐、教職員室長、学校教育課長、児童生徒支援課長
生涯学習課長、教育支援センター所長、
教育総務課係長
政策調整部次長、企画調整課主査
- 6 議事の経過 別紙のとおり

1. 開会

2. 議題

(1) 第4期大津市教育振興基本計画／大津市教育大綱（案）について

資料1 「第4期大津市教育振興基本計画/教育大綱（案）について」

資料2 「第4期大津市教育振興基本計画/教育大綱（案）」

〔質疑応答〕

第4期大津市教育振興基本計画／大津市教育大綱（案）について

資料1 「第4期大津市振興基本計画/教育大綱（案）」

資料2 「第4期大津市振興基本計画/教育大綱（修正案）」

○大野座長

総合教育会議、懇話会等で抽出された意見を限られた時間の中で上手く吸い上げていただき、本計画素案に反映されているように見受けられた。また、実際に教育現場に携わる教職員らを励ますような内容となっているように思われた。委員の皆様からは、本計画素案をより良いものにするためにご意見をいただきたい。

○大貫委員

資料2について

8頁の「大津市における子どもがいる世帯の状況」のグラフについて、ここでいう「子ども」とは何歳から何歳までを指すのか。

○事務局

18歳未満の未成年を対象としている。

○岸場委員

ある中学校の運動会に参加した際に、教職員が問題行動をしていると見受けられる一部の生徒への指導・見守りをどのように行っているのか疑問に感じる出来事があった。昨年小学校の卒業式に参加した際にも同様のことを感じたことを踏まえ、時代が変わる中で、教職員がどのような姿勢で生徒への指導を実施していくのかについて気になっている。

○大野座長

時代が変わり、課題が多様化していることは事実である。そうした状況において教職員も様々な対応をしていると考える。多様化する課題への対策を本計画案にどのように盛り込まれているか事務局からご説明いただきたい。

○事務局

時代の流れとともに子どもたちの様子は変化しつつあると感じる。他者に対して気持ちを表すことができる子どももいれば、気持ちや置かれている状況をうまく他者に伝えられない子どももいる。大事なことは、成長過程で多様なステージを経験し、色々な課題を抱える子どもたちに対し市として支援を閉ざさない、関わりを諦めないことではないかと考える。そのメッセージを本計画案の基本理念の「ともに」に込めているつもりである。

○大野座長

こういった問題に対しては、学校現場だけではなくコミュニティ・スクールも重要な役割を果たすことが考えられ、本計画案にも反映されていると見受けられる。

○小森委員

これまでの協議内容が本計画素案に丁寧に反映されていると感じる。子どもたちのアンケートなどや意見交流会から得られた意見を興味深く拝見させていただいた。

先ほど、事務局から説明があった子どもの課題の多様化に関してだが、昨今では子どものSOSをキャッチするのはなかなか難しくなっていると感じている。そういったSOSを表現できない子どもたちの意見をどう反映していくのかといった切り口も今後は重要になってくると考えている。

時代が変わり子どもの考え方が変わってきている部分もあるものの、変わらない子どもらしさもある。現場に身を置く自分としては、良くも悪くも人との関係性が変わってきていることを実感しており、これがSOSのキャッチのしにくさに繋がっているのではと思う。

子どもを育てる親の状況も変化している。例えば、PTA活動への参加やそこに求めることや感覚がこれまでとは異なっているという点。

このように、時代が進むにつれて、子どもやその親の感覚は変わっていくが、それでも変わらない部分や変えるべきではないこともあると感じており、何を変えて何を変えないのかの判断は慎重にしていくなさと考えます。

○大野座長

PTA加入率の低下等に表れているような、コミュニティの希薄化が進んでいることに対し、何か事務局からご説明をしていただけるか。

○事務局

不易流行の面で述べると、ICT機器の導入により子どもたちがタブレット学習を行う場が増えたことが挙げられる。これは新しい取組ではあるものの、画面を通して学ぶだけではなく、実際に体験することも教育の中で大切にしていくなさがあると感じている。どちらかに偏るわけではなく両方を推進していくことで、子どもたちの将来に繋がるような教育の推進に努めている。

またこうした教育を進める中でICTに疎い教職員と若手教職員との間でコミュニケーションが生まれる等のプラスの面もある。

コミュニティ・スクールは、平成27年を皮切りにその活用を推進してきており、子どもたちをどのように教育していくかという理念をそれぞれもって活動している。

PTAの加入については各家庭の親の働き方の変化などもあるが、コミュニティ・スクールでは、子どもを中心に考えた目的に重点をおき、PTAだけではなく、地域全体で教育に関わっていくことを推進している。

○大貫委員

資料2について

6頁の人口のグラフに関して、今後の人口減少が示唆されている。そこから読み取れることとして、生産人口の割合が減少していくことから、大津市役所の職員数の減少も想定される。少ない人員で多くの業務を遂行しつつ、新たな業務に対応する必要性が発生する。加えて、年少人口はさらに減少していくことから、特に教育関連の業務をより少ない人員で対応していく必要があると見通される。

タブレットの導入は、こういった人員不足に対応するツールにもなりうることに加え、双方向型のコミュニケーションを促進するツールにもなりうる。タブレットを活用（実生活の中に居場所がない子どもが活用できるような機能を整備することで）すれば、「誰も見捨てない大津市」を実現できるのではと可能性を感じる。

○事務局

大津市では、大貫委員が例示いただいたような内容を検討しているところであり、タブレットから相談窓口のフォームに簡単にアクセスできるようになっている。

また、国の「こころの健康プラン」を基に、タブレットにこころの健康アプリのようなものを導入し、そこで気軽にこころの状況をボタン一つで他者に伝えられるようなシステムの構築を検討している。

このように、タブレットを活用して子どもの状況を把握することもできるが、やはり対面で感じ取れる服装や挙動の様子などから、子どもたちの違和感を早期にキャッチして対応していくことが基本であると考えている。教育における不易流行のバランスをとりつつ子どもたちへの必要な支援体制を構築していきたい。

○大野座長

コミュニティ・スクールに関し、学校側の連携担当者とコミュニティ・スクール側のキーパーソンとなる担当者の連携方法、促進について具体的にどういった支援を考えているか。

○事務局

コミュニティ・スクールの設置は小学校、中学校の校区内で順調に進んでいる。現在は量的な増加から質的な高まりを目指す段階に来ていると感じている。今後は、子どもたちを支援するために地域でどのように活動するかを考え、学校や地域との役割分担を話し合いレベルで終わらせず、実際の活動につながるような取組を実施していきたいと考えている。また、大津市が実施している活動を伝える活動も実施していく。

活動については、地域ごとの特色があってよいものであるため、市全体で統一的な形を当てはめるのではなく、それぞれの特色を活かした活動を推進することを目指したい。

○大野座長

様々な施策を通してコミュニティの結びつきの強化を実現していくということで理解した。

各委員の意見を踏まえると、本計画案がどの世代が読んでも理解される内容であることや双方向の対話、理解ができるものになることが重視されていると感じている。また、計画に関する周知、広報についても関係者に内容が浸透するように取り組まれない。

○小森委員

過去の悲しい事件を踏まえ、大津市全体で同じことを繰り返さないよう努力した結果、今のような状態になっていることは理解している。一方で、心の発達や人との関わりが始まる段階から、「良い子」を育てることに重きを置きすぎているようにも感じる。トラブルを過度に避けてしまうことは、子どもが自身の気持ちに向き合うことを阻害してしまい行動を制限してしまうことにつながっている可能性があるのではないかと感じている。本計画において、「良い子」の押しつけがないよう一人一人の気持ちを大事にする内容となっていればと思う。

以上